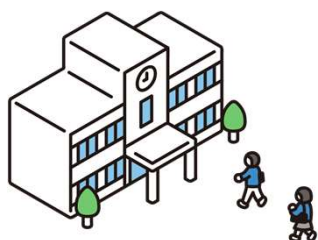




桜の宮中学校の小規模校対策 に関する保護者説明会



2026年5月7日・11日

神戸市教育委員会事務局学校環境整備課



目次

01

小規模校への取組み

02

現状と将来推計

03

統合案について

04

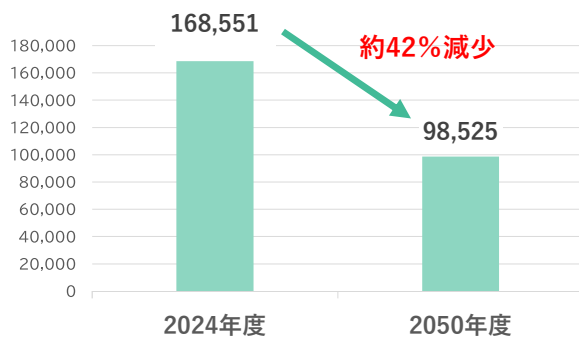
質疑応答

小規模校への取組み

01

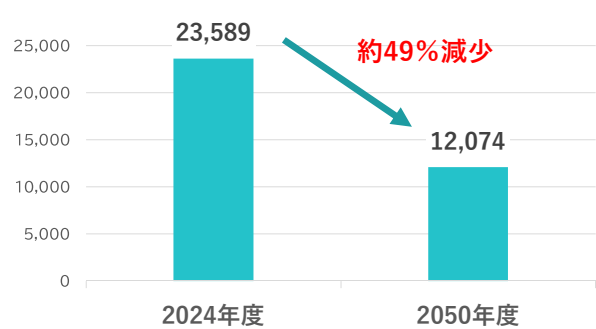
神戸市・北区の人口推移（0～14歳）

神戸市の人口（0～14歳）



14歳までの子供の数は約7万人減少する見込み

北区の人口（0～14歳）



14歳までの子供の数は約1万2千人減少する見込み

今後さらに児童生徒数の減少が見込まれる

神戸市・北区の小規模校の現状

小規模校の数（全市）

	1981年度 (児童数ピーク時)	2025年度
小学校	19校/161校 11.8%	61校/163校 37.4%
中学校	5校/76校 6.6%	18校/82校 21.9%

【小規模校の定義】 小学校：11学級以下 中学校：8学級以下

小規模校の良さと課題

良さ

- 校外学習を行いやすい
- お互いのことを認め合える
- 男女の隔てがない
- 教職員が子供たち一人一人を共通理解して接することができる
- 施設面で、急な時間割変更にも対応しやすい

課題

- 行事に活気が少ない
- 多様な学習形態を行いにくい
- クラス替えができない
- 一度人間関係が崩れると学校生活が送りにくくなる
- 人間関係の固定化が生じる
- 教職員への依存度が高まる
- 社会性が身につきにくい
- 教職員の負担が大きい

➡ 課題解消のために一定の集団規模を確保するための取り組みが必要

基本方針の策定

学校規模適正化についての全市的な方針 を策定

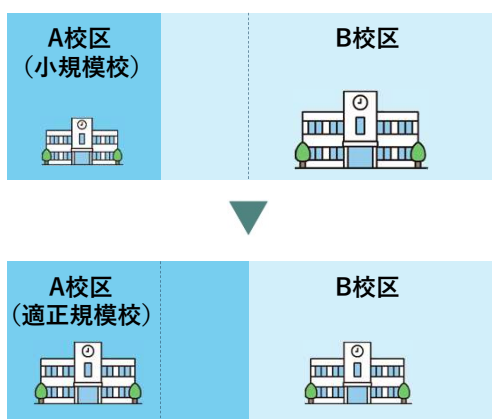
(令和5年6月)

基本方針の内容

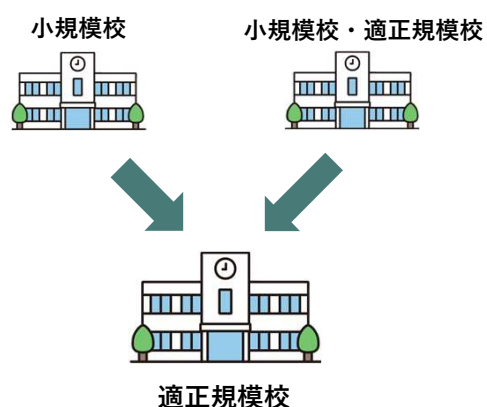
- 小規模校への取組み手法を具体的に例示
- 取組みの進め方
保護者や地域の方々と学校の現状や課題を共有し、意見交換を行いながら、地域や学校の状況に応じた取組みを検討していく

取組みの手法

1. 校区変更等

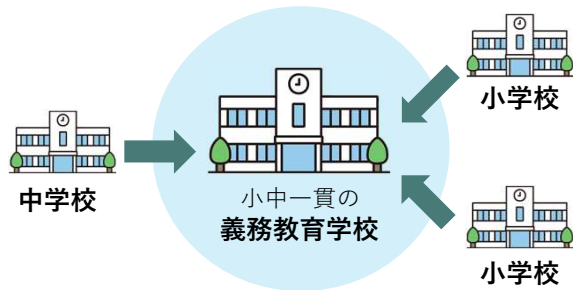


2. 学校統合

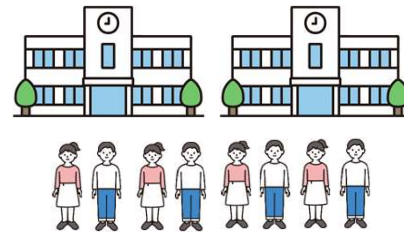


取り組みの手法

3. 義務教育学校への移行



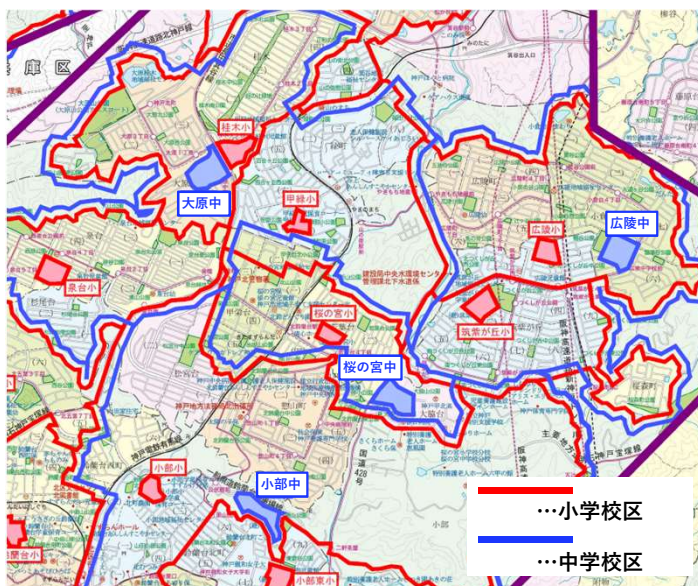
4. 合同授業・学園制等の学校間交流



現状と将来推計

02

桜の宮中学校周辺校区図



●桜の宮中周辺校の生徒数・学級数

	桜の宮中	大原中	小部中	広陵中
生徒数	92	482	481	368
学級数	3	14	14	11

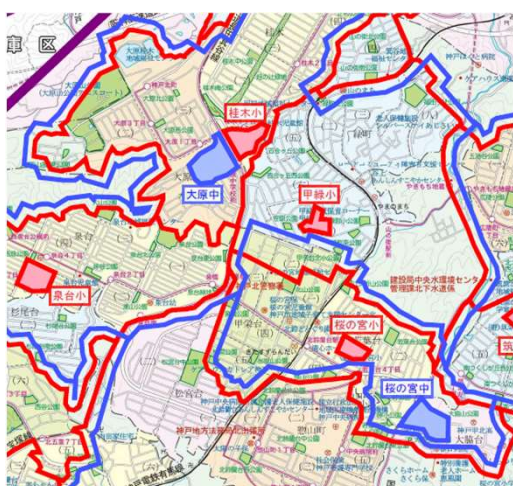
※2026.4速報値

※学級数は特別支援学級を除く



桜の宮中は市街地で唯一の
クラス替えができない学校

桜の宮小・甲緑小・桜の宮中・大原中の将来推計



		推計値						
		2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数
桜の宮小	児童数	210	213	230	230	240	250	260
	学級数	9	9	10	10	11	11	11
甲緑小	児童数	244	238	250	260	230	230	220
	学級数	10	10	10	11	9	9	9
桜の宮中	生徒数	102	92	110	110	120	120	130
	学級数	3	3	4	5	6	6	6
大原中	生徒数	497	482	470	450	450	400	350
	学級数	14	14	14	14	14	13	11

※学級数は特別支援学級を除く

※将来推計は住民基本台帳の情報を基に作成



桜の宮中学校は、
適正規模が見込めない

統合案について

03

統合の必要性

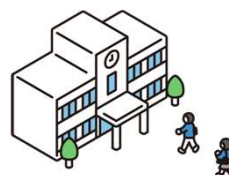
1

クラス替えができない市街地で唯一の学校である
桜の宮中学校は、適正規模が見込めない

2

中学校では学力の向上だけでなく、多様な人と触れ合うことや、将来に向けて
集団の中で社会適応力を高めていくことが大切であり、一定の集団規模が必要

より良い教育環境を確保するため
近隣の中学校と早期の統合が必要



統合案

統 合 先

大原中学校

統合時期

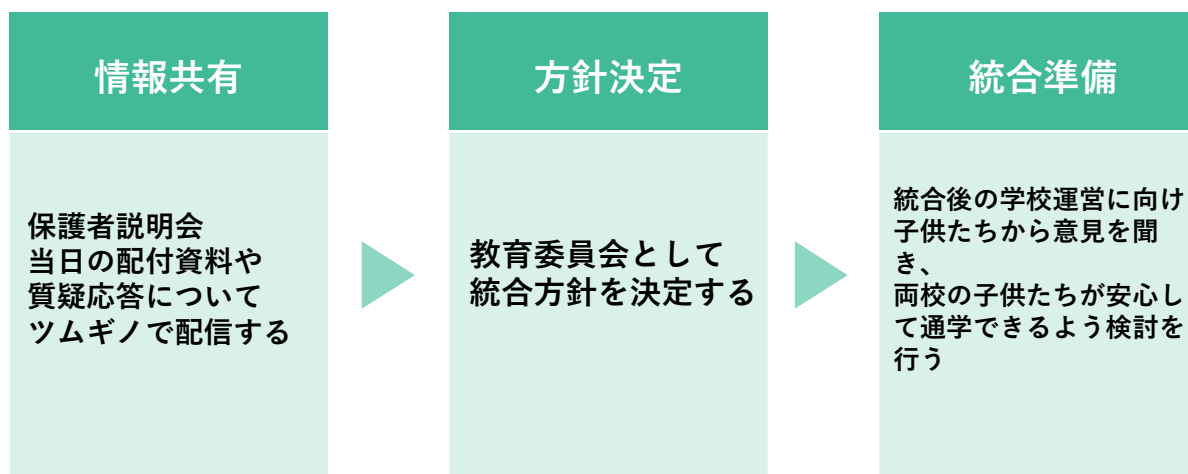
2028年 4 月

- 桜の宮中と大原中が統合した場合の学校規模 -

		2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031
統合校	児童数	599	574	580	560	570	520	480
	学級数	17	17	17	17	17	16	14

※学級数は特別支援学級を除く

今後の流れ



質疑応答

04